長崎県の HPV type について

山崎　健太郎*　　三浦　清徳　　池本　理恵　　三浦　生子　　嶋田　貴子
濱口　大輔　　小寺　宏平　　藤下　晃　　鮫島　哲郎　　村上　誠
中山　大介　　吉浦　孝一郎　　増崎　英明

１．背景・目的

子宮頸部の異形成から頸がんへの進行にはヒトパピローマウイルス（HPV）の感染が大きく関与している。この事に着目し、現在、欧米では HPV に対するワクチンが開発され、その有効性が証明されつつある。一方、HPV 感染の自然史や人種や地域差による HPV 感染など、不明な点も少なくない。今回、私どもは長崎県における HPV 感染の現況について報告する。

２．対象・方法

2007 年 8 月から 2008 年 3 月までに長崎大学および長崎県下の協力病院において、同意の得られた被検者を対象にした。

３．結果

今回の研究で集積した検体は 2008 年 3 月時点で 374 例であった。その内訳は子宮頸癌が 57 例、子宮頸部異形成でフォロー中の症例が 252 例、スクリーニング例が 58 例、その他が 7 例である。HPV のタイプ別にみると、16 型が 65 例と最も多く、次いで 52 型の 45 例、以下 58 型が 30 例、18 型が 21 例であった。

４．まとめ

今回の結果で HPV 型で最も感染が多かったのは 16 型であるが、52、58 型が 18 型より多かった。長崎県における HPV 型と欧米におけるそれとの地域差が明らかになった。

*長崎大学医学部　産科婦人科
〒852-8501　長崎市坂本 1-7-1